

熊本に向けて DMAT 出動！

— 被災地の「医療を止めない」ために —

派遣要請	兵庫県から第3次出動要請（兵庫県下 11 施設が要請を受ける）
派遣チーム	医師・看護師・薬剤師・理学療法士 計 5 名
活動期間	8 月 2 日～8 月 5 日

1. 現地での主な活動

当院 DMAT は、熊本県央南活動拠点本部に派遣され、「物資支援担当」として活動しました。病院・施設・被災地支援などから寄せられる物資支援依頼を集約し、必要な物資を把握するとともに、必要な病院や施設へ物資が届くよう、関係機関や運搬業者との調整を行いました。

2. 特に支援依頼が多かった「水・トイレ・空調」

現地では断水の影響により、生活用水や飲用水、トイレの確保が大きな課題となっていました。また、電気は比較的早期に使用できたものの、クーラーの室外機の不具合などにより空調設備が使用できない施設もあり、スポットクーラーの配備を調整しました。さらに、排泄物をラップで包んで処理する簡易トイレ「ラップポン」の設置についても手配を行いました。

3. 物資支援は「届けて終わり」ではない

物資支援担当は、通常は直接運搬するのではなく、必要な物資の把握や関係機関（被災した地方自治体、自衛隊など）との調整を中心に行います。一方、災害時には運搬業者が確保できない場合もあり、状況に応じて DMAT が直接物資を届けることもありました。また、支援後も、物資が足りているか、新たな不足が生じていないか、継続した支援が必要かを確認する再評価が重要です。

4. 物資集積所での活動

物資集積所では、多くの物資の保管状況を確認し、その情報を活動拠点本部へ報告しました。必要な物資を迅速に支援へつなげるためには、物資そのものだけでなく、在庫や保管状況などの情報を正確に把握・共有することが重要です。

5. 活動を通じて感じたこと・今後に生かすこと

今回の活動で印象的だったのは、10 年前の熊本地震の経験を踏まえ、さまざまな施設の職員が協力し、「自分たちでできることは、まず自分たちで対応する」という姿勢で災害を乗り越えようとしていたことです。災害時には、外部からの支援を待つだけでなく、平時から自ら備える「自助」と、必要なときに支援につながるための情報共有・連携で成り立つ「共助」が重要だと感じました。

南海トラフ地震など、今後どのような災害が発生するかは分かりません。今回の熊本での DMAT 活動で得た経験を院内で共有し、当院の災害対応や訓練、地域の医

療機関・行政との連携に生かし、「医療を止めない」ための次の備えにつなげていきます。